

女体化した幼馴染みに、  
ふたなりち○ぽを屈服させてしまった私

基本CG 9枚 ストーリー 65枚





「わっ……♡♡♡？うう……み…みないで……  
みないでええ」  
「へええ？けっこう可愛い…うーん…エッ  
チイ下着はいるのね？紐じゃないこれ」



「だって、お母さんが勝手に……それに自分で  
なんて買いにいけないし……何も履かない  
わけにもいかないし……も、もういいで  
しょ？」

「それは、せっかく見つけたんだから色々着せたいな〜って。それにしても、ほほ……というかモロにコスプレみたいなの衣装まであるけど……」



「凄い趣味ね……」

『ボクのせいじゃないからね♡?……お母さんかソシ買ってきたって方が駄目な気がする』

「いやらしいいく、エッチにおねだりしてく  
れたら考えてあげるかも？」

『そっそんな……』

「嫌ならいいわよ？ほらお外にでまちよう  
わえ」

『やっやらあ♥やだやだ♥いう♥いいますが  
らあああ』

はー…♥

おねだり♥

はー…♥

キゅん♥

トロロ♥

はー…♥

キゅん♥

『ギンギンに勃起したメスち○ぽで、ボクのお  
ま○こ犯してくださいますか？おま○こ期  
待しちゃって、エッチなお汁とまらにやいか  
りやあ』

『おち○ぽつつこんで、めちやくちやに犯し  
てくださいい』



「おえ、唯！あんたいつまで学校休んでるのよ！？たしかに不良みたいな外見で、見た目だけで不良認定されたりしてたけで……」



「学校さぼったり、本当に不良みたいな事する奴じやなかったでしょ？何やってるか知らないけど、いい加減学校くらいでてきなさいよ！」

【鰐塚 唯(ワニツカ ヌイ)】。

私ごと【姫野 奈々(ヒメノ ナナ)】の幼  
馴染みであり、無茶苦茶な目付きの悪さ  
から不良によく勘違いされる。

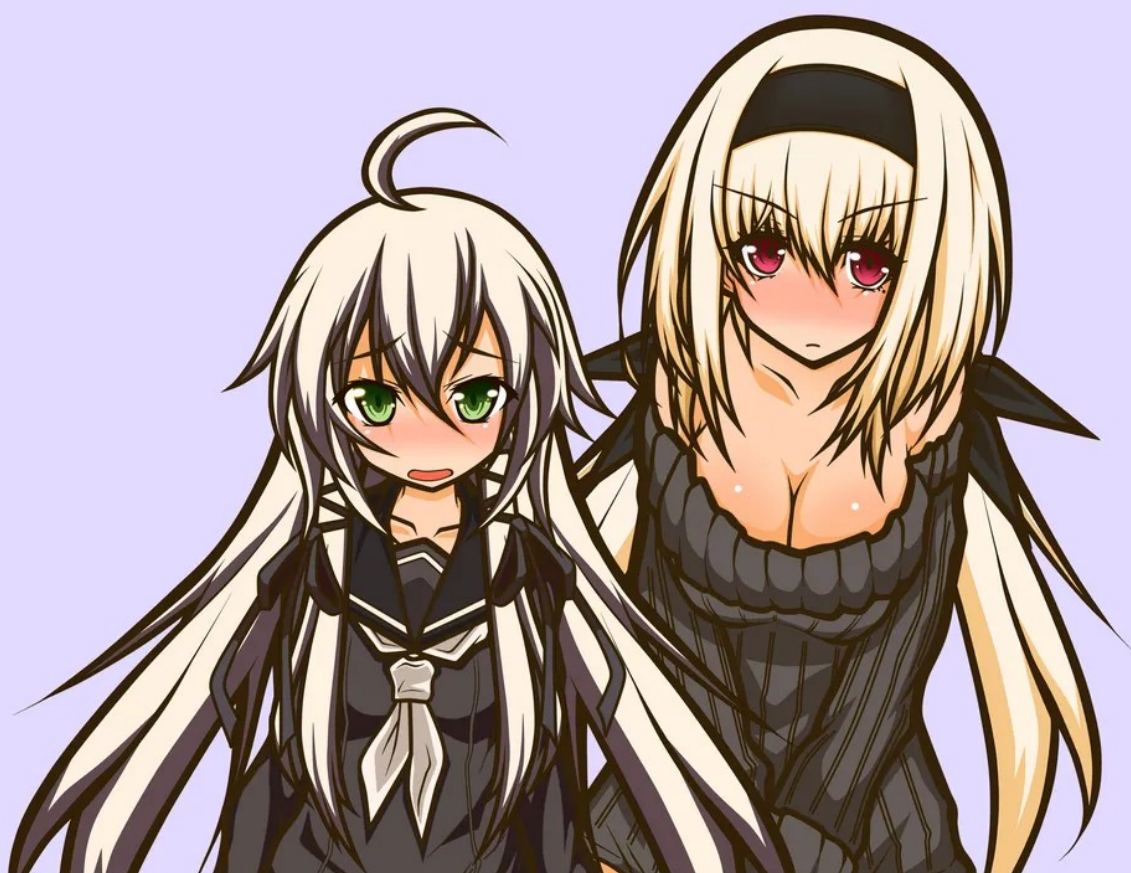
「たしかに、子供にはすれ違っただけで泣かれるし、お巡りさんからはマークされて、ヤの付く自由業さんからはスカウトもかかって、このままじゃソッチの道しか無いかもしれないけど♡♡♡」



「何かあったんなら、私に相談くらいしなさいよ♡♡♡」



『こりあえず、幼馴染みの僕への評価が辛辣すぎるんだけどどうにかならないかな？！』



「……でなた？」  
『あ……う……実は……』

女体化ウイルス  
どんな男でも美少女に変えてしまうとい  
う謎のウイルス。  
感染してしまえば最後……治療方法は無  
いという。

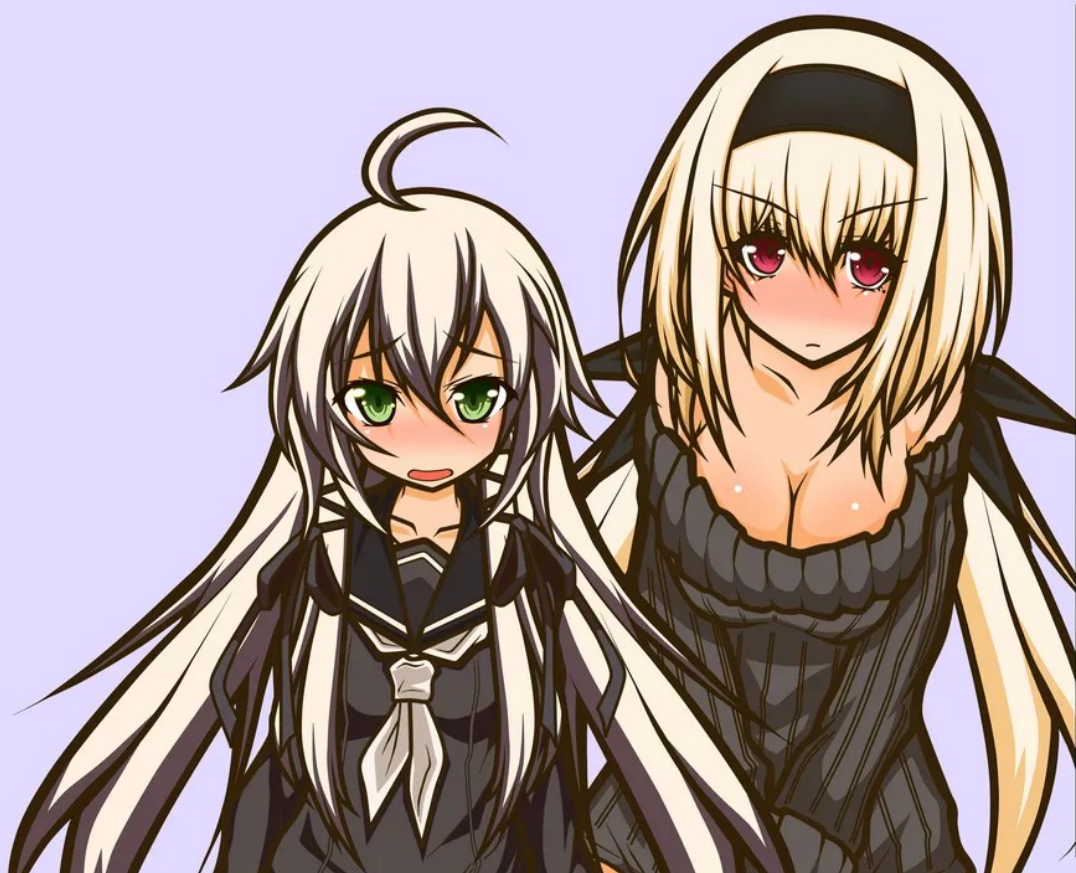
「はああ、正直未だに二ワカには完全には信じられないけど、あの唯が……変われば変わるものねえ。女の子の制服まで着ちやあってまあ」

「ボ、ボクだって未だに信じられないよ……こんな事になっちゃうなんて。」



「でもお医者様にも観てもらったけど、今の医学じゃ直せないっていうし、お母さんは娘がほしかったの！とがいて今までの洋服全部捨てて女の子の服大量に買ってきちゃうし……」

『ボク……こんなだし……奈々にまで嫌われちゃったら……』



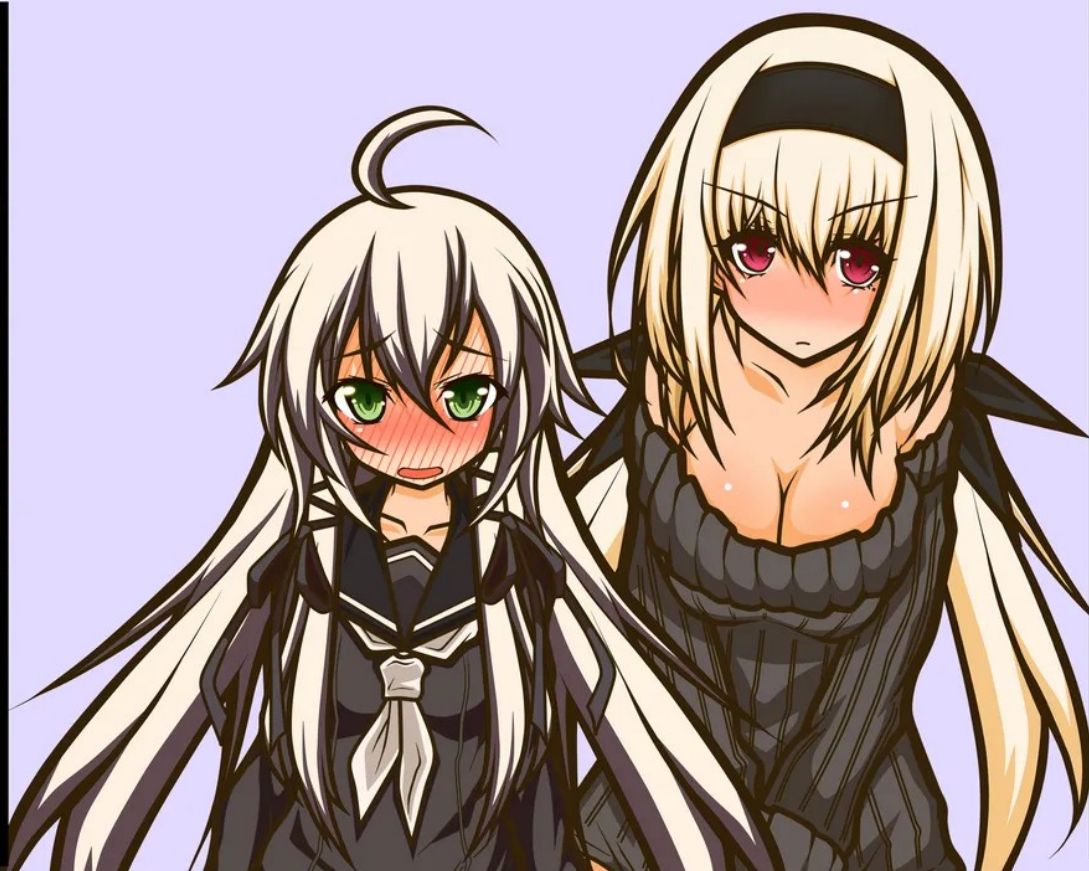
『学校だって行かなくていいのは解ってるけど……こんな姿見られるのは、おこし怖い。ホントは奈々に会うのも怖かったんだ、気持ち悪いと思われたいしなになって……』

「……………」  
(なんだ、この可愛らしい生物は♥♥♥?  
いや?あれであれであれ。あの強面キャラ  
でその気弱な内面よりも、その、ちんま  
い可憐な姿のほうが100%合うから  
ね?キャラで外見が)



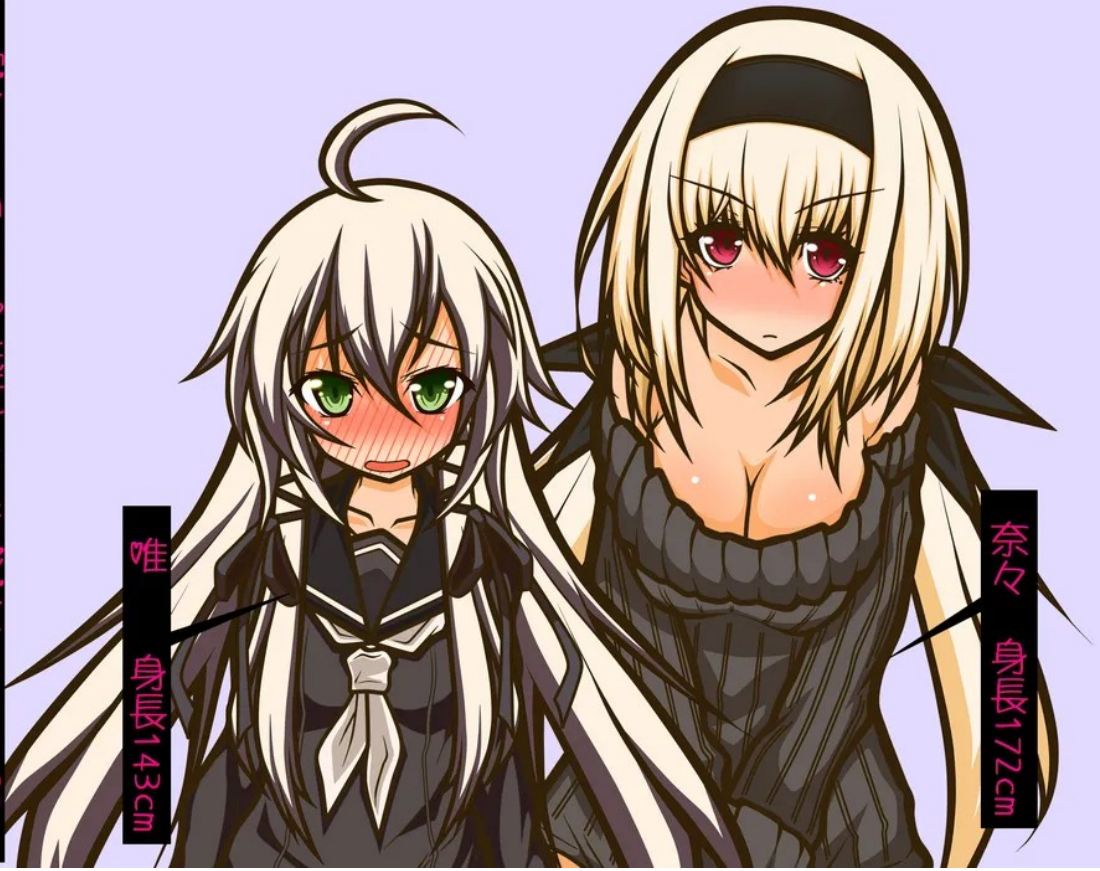
「唯……………あんた……………100%の人Φ100%の人  
が女の子のほうに向いてるっていうわ  
よ!大丈夫、自信持って♥!」  
『あんまりうれしくないよ♥♥♥?』

「それで、男物の服は全部捨てられちゃったことが言ってたけど、そのスカートの下ってどうなってるのかしら？」  
『え……そ、それは……その……ひ、秘密？』



「口ごもってる時点ではればれよ？ホントわかりやすいわよね、ふふふ。見せなさい。ちゃんと履けてるかどうかチェックしてあげるから」

『え!?!ちよ……ま!?!や……やだ……  
ちよってまって……!?!』



奈々 身長172cm

唯 身長143cm

『だ……め……抵抗してもむだよ……男  
の体ならこもかく、そんなちっちな体にな  
っちゃって、私に勝てるはずないでしょ?  
てい!?!』

「わっ……♡♡♡？うう……み……みないで……  
みないでええ」  
「へええ？けっこう可愛い……うーん……エッ  
チイ下着はいるのね？紐じゃないこれ」



「だって、お母さんが勝手に……それに自分で  
なんて買いにいけないし……何も履かない  
わけにもいかないし……も、もういいで  
しょ？」

「だーめ。今まで私に心配かけた罰よ。罰  
もし隠したりしたら、唯なんてしらないか  
ら」



『ひっ♡?や……やだ……見ていいから……  
あきなだけ見ていいから、お願い……そんな  
こと言わないでよ……ぐす』  
「……(ああ……もう無理ね、これ)」  
ベットに押し倒した唯に無理やりキスをす  
る。

「ちゅめ……ちゅめみる……ちゅめぶっぶっ」  
『んぐ♥?んんん……んんらら♥?』  
プシィィ



「ぶは……ごめんね、唯。唯が可愛すぎるから我慢できなかつた。大丈夫捨てたりなんかしないから。それに唯のことは昔から好きだったし……って、あれ?」  
『はあぬ……』

「……キスだけで軽くイッててんじやうか  
……ほんと生まれてくる性別もてから間違っ  
てたんじやないかしら？可愛すぎるんだけ  
で」



「唯々々せ々々っかく告白してあげたってい  
うのに、聞いてないとか、許されるのよ  
っ？はやく起きないてっえいっ」

『んひっ♡♡?にや、にやに♡♡?にやに  
て……んおお♡?な、奈々にしてそこ汚  
……んおお♡?』



『そこ……じやないでしよ?おま○こでしよ  
う?』  
『う……うう、お……おま○こお、おま○  
こそんなエッチな触り方しないでええ』

「よくいえまちたね〜偉い偉い。でも、やめてあげない」  
『んおっ!?!おほおおお!?!にやっ、にやんでええ!?!ちやんとボク、おま〇こっていったのにひいひい』



「別に言ったらやめてあげるなんて言っないわよ〜私。だってこれは罰なんだから。ちやあんと反省してもらわないと」



「だーめ。ほらぎゅってしてあげるわね。  
怖くない怖くない〜ちゅう」  
『んっ……んん……ななあ』

『ごめんなしやいごめんなしやいごめんな  
しやい〜もう奈々に心配かけにやいか  
りやああ、もうゆりゆりしてええ』  
『いっちやうろうろ! いっちやうろか  
りやああ! 怖いよう……やっやだああ……  
いきたくにやいい』



『はひっ……はひい……いっちやっらあ、おま○こいっちやっらあ……』  
「かわいかったわよ？唯。やっぱり、あんた女の子の方が似合うんじゃない？」



『全然うれしくない……でも……奈々がそう  
いってくれるなら……女の子でもいいかな  
……ちよって怖かったけど……その』  
『奈々が抱き締めてくれたし……きもち  
よかったし……』



「……唯、あんたそれ、天然でやってるの。」  
『あはははは』

「まったく……責任とりなさいよね……あんなのせいで……こんなになっちゃったじゃない」



おはっ♡  
おはっ♡  
おはっ♡

はー…♡

はー…♡

はー…♡

はー…♡

『えっ……えええ♡♡?なんでスカート脱いで……』



『キ……聞いてないよ……って責任ってもし  
かして……その』  
「そっよ、唯が私のメスち○ぽをじゅっぽ  
じゅっぽして、おちちんミルクをドビュド  
ビュンせてくれればいいわ」

は——…♡

は——…♡

は——…♡

は——…♡

は——…♡



トロン…♡

ズン…♡

ぶん…♡

ズン♡  
ズン♡

ズン♡  
ズン♡

『おっ、おおお、女の子がそんな事いっちや  
だめだとおもいます♡♡』

「なに時代の話よ、それ。っで唯は嫌なの？  
私は唯の事、あーそんなにきもちよくしてあ  
げたのに……唯は私にはしてくれないの？」  
『そ……それは……その』

は——…♡

は——…♡

は——…♡

トロン…♡

は——…♡



「私は唯の事、好きよ？唯は私の事好きじゃ  
ないの……？」  
『あっ……好きだよ♡……うん、わかった。  
うまく出来るかわからないけど……頑張る  
わっ？』

「……(ちよろい)」

「まあ、とは言え最初からおまの〇こでジューポ  
ジューポでか、無理は言わないわ」



『だからって、おしりであるなんて……やー  
かたよく解らないし……なんで繪ハニ  
……っ』

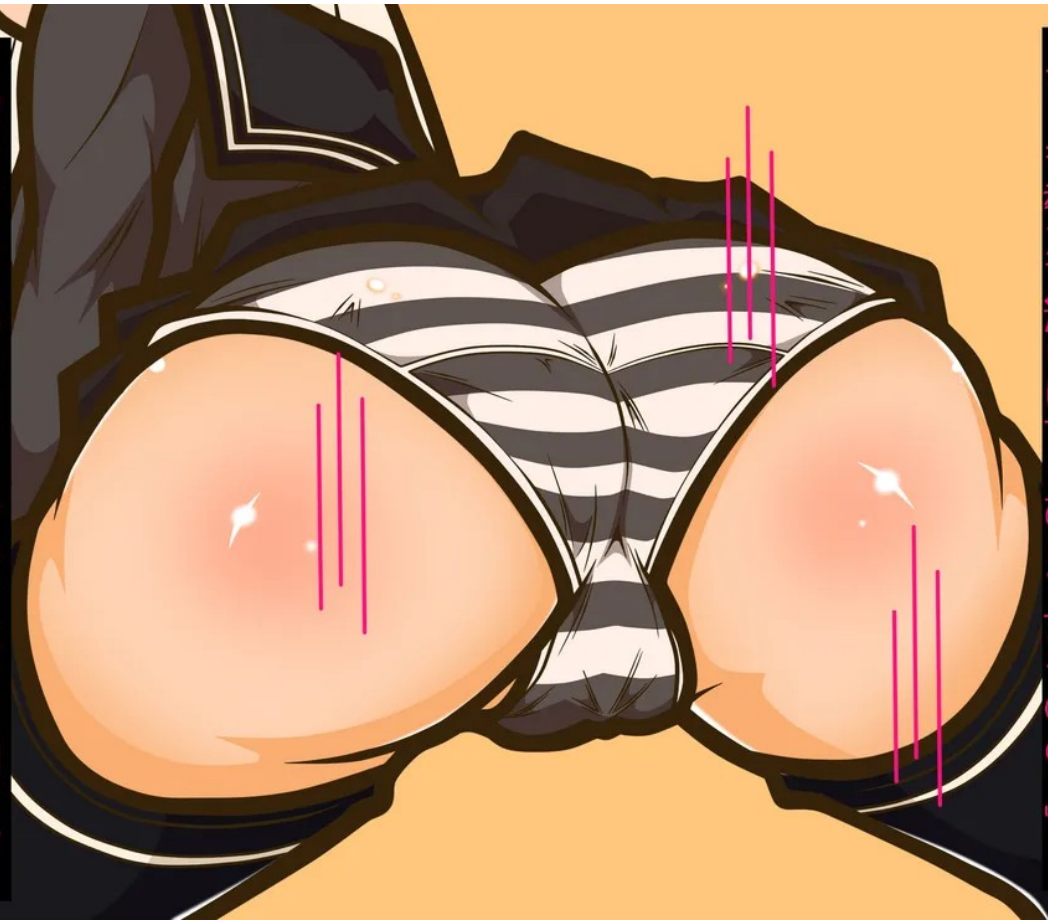
「それは、せっかく見つけたんだから色々着せたいな〜って。それにしても、ほほ……というかモロにコスプレみたいなの衣装まであるけど……」



「凄い趣味ね……」

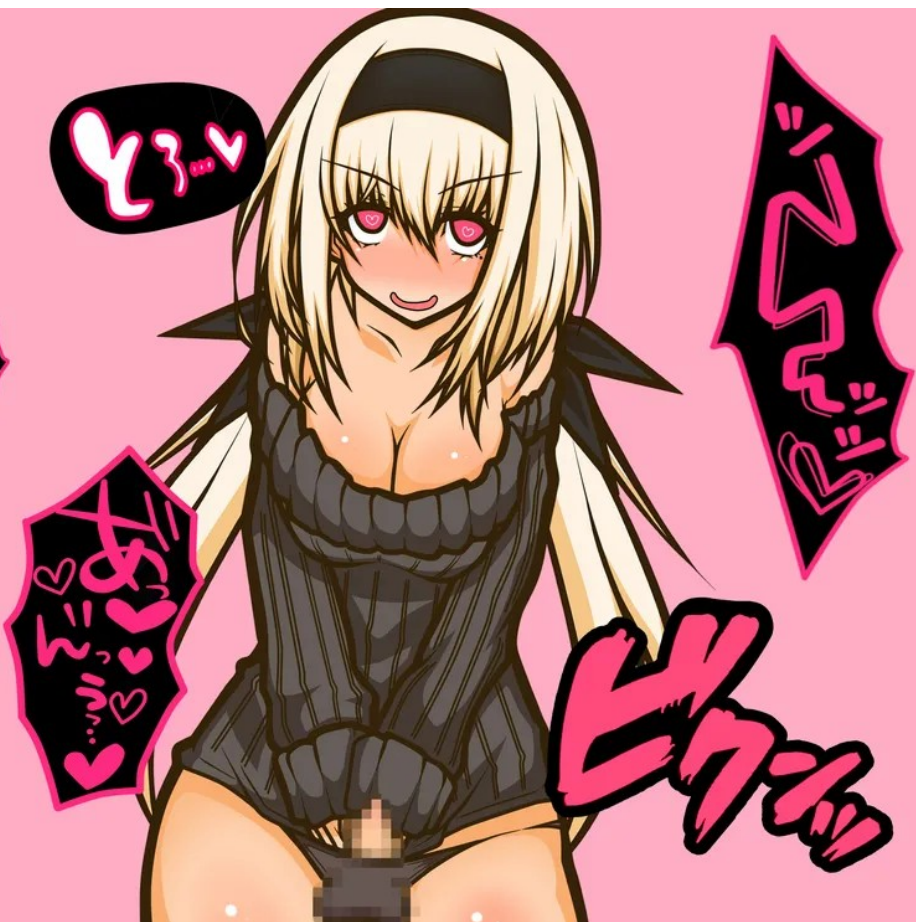
『ボクのせいじゃないからね♡?……お母さんかソシ買ってきたって方が駄目な気がする』

「まっ、私としては楽しませて貰えるって事でありがたいけど、ほらほら早くしなさい。さっき教えた通りにちやあんと言うのよ?」



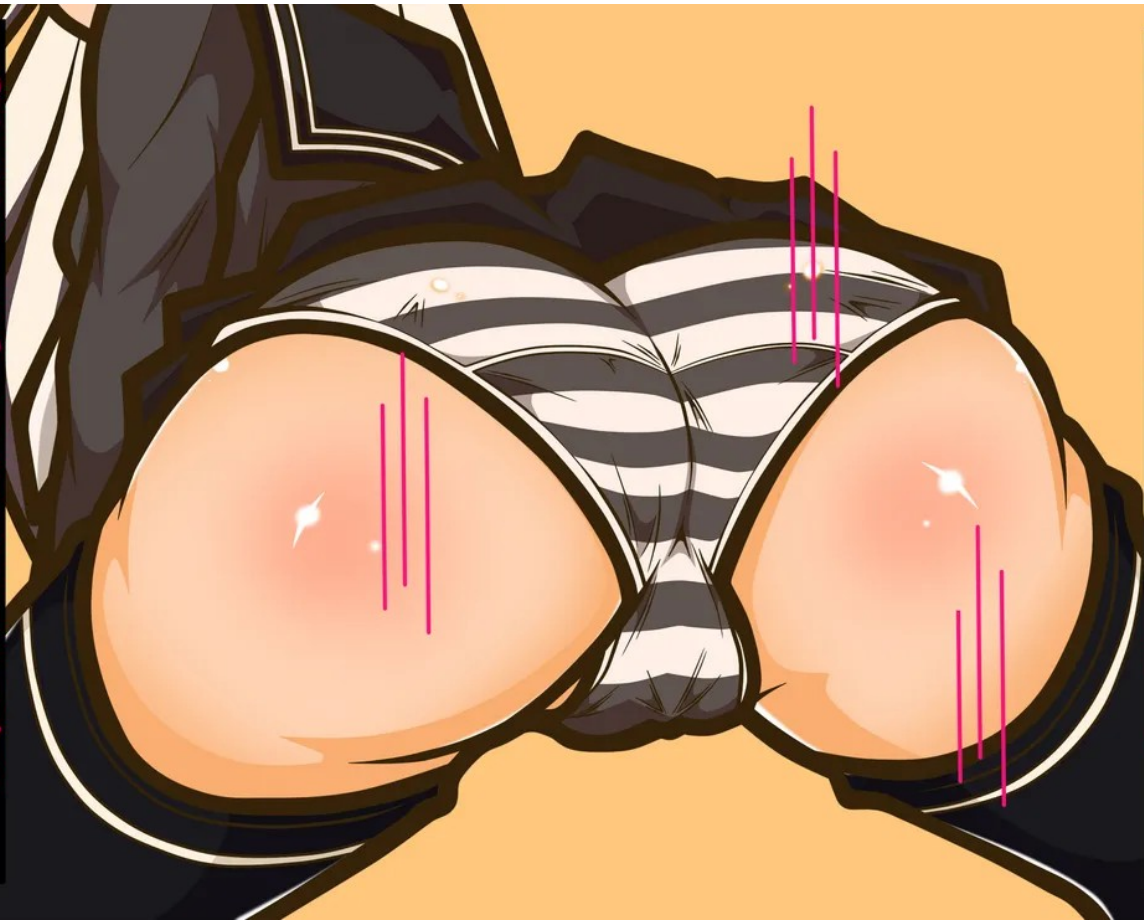
『うう、わかったよ……。ボクはこの間まで男だったのに、女の子になっちゃって……。幼馴染みを誘惑しちゃった悪い子です』  
『いやらしい縞パンを履いたおしり……。ま〇こで……。おちぼ様にシッコシッコフリフリ、一生懸命御奉仕しますから……。どうか許してください』

「はああ…はああ…唯の可愛いおしりが私の  
おち〇ぼ犯して…んひい」  
『犯してって奈々がやらせてるのに……で  
も、おち〇ぼ気持ちいいの……?』



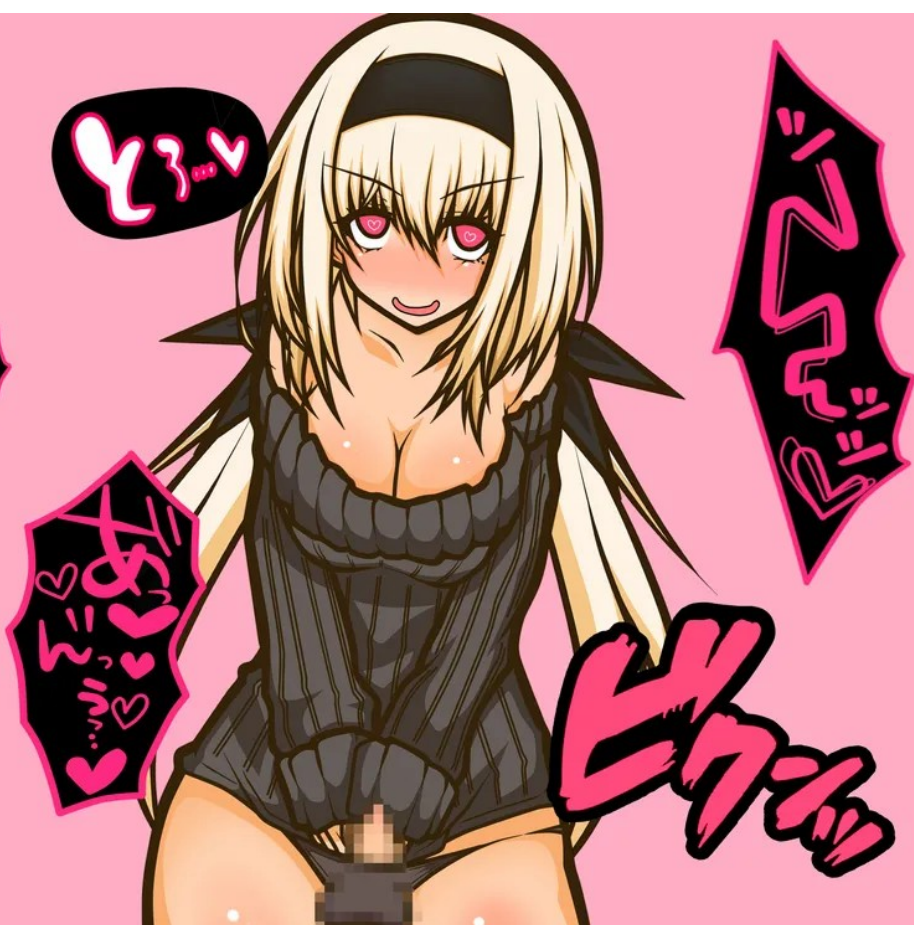
「きもち…良いわよ…んひっ♡?…んおあ  
お…ちよっ、ちよっこま…おち〇ぼ  
ちよっこ敏感になりすぎちゃって…ほ  
ひい」

『そうなんだ……奈々、だらしない顔して  
る。恥ずかしいけど……嬉しいかな?』

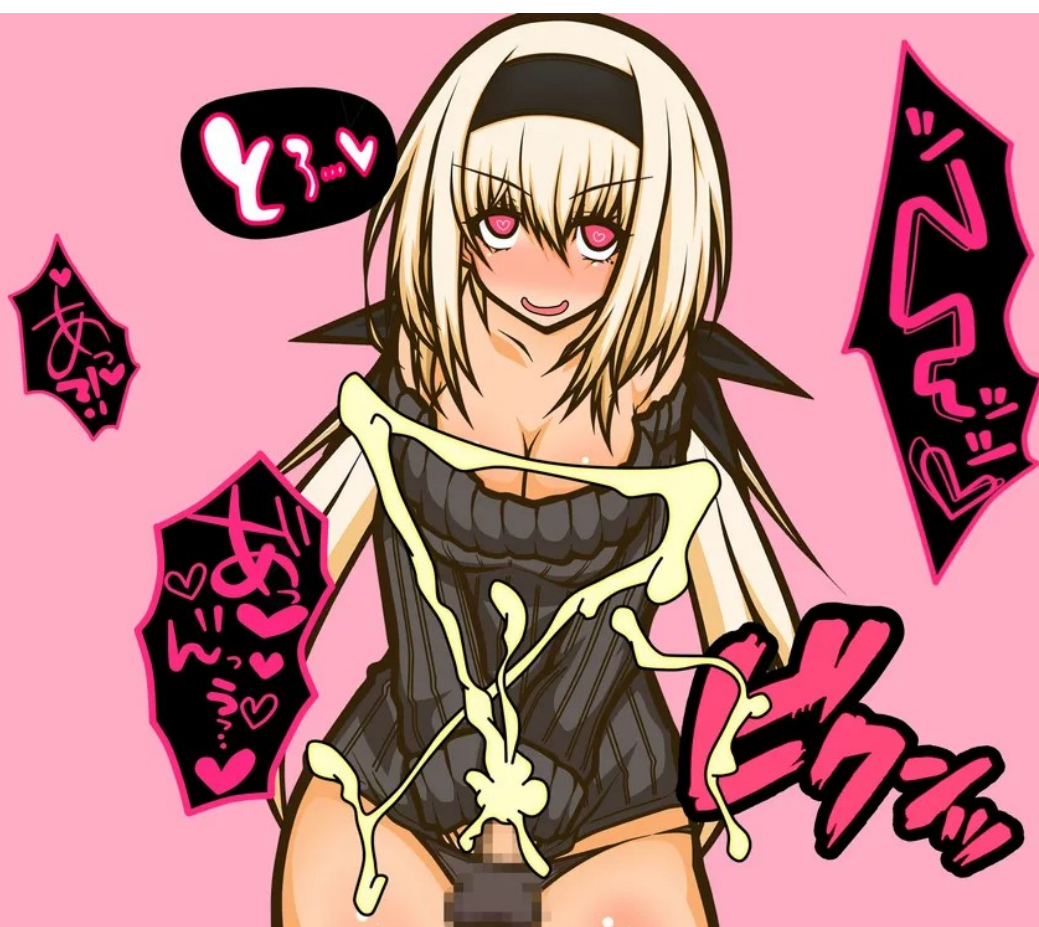


『ほらほら……もっつきもちよくしてあげる  
ね。慣れてきたし、メスち○ぽ、おしりま○  
こで搾り取ってあげるから』  
『ほらほら……しっしっしっしっ。おち○ぽ頑  
張ってっ』

「おひいいい♥♥?おち○ぽお尻で……ほ  
ひはおろろ。まっまって……こんにやのため  
……こんにヤイカされかたためえええ」



「えっ、そりゆうろろ♥♥おち○ぽミル  
ク、ドビュドビュしちやうろろ♥おち○  
ぽ、おしりま○こを犯されていっちやう  
……」



「ほひよおおおおおおおお」  
『わっ♡?...いっばい出たね。それじゃ、  
またシコシコしてあげるね』  
「まっまって♡?いま、いっらばかりらか  
りやああららんおおおお」

『いっぱいでおねえさん偉い偉い』

唯がそう言いながら、あたまと撫でてくる。

「……ふん。まって言ってるのに、好き勝手犯してきて……私が主導権にぎりたかったのに」

『あう……ごめんね？ 奈々の可愛いイキ顔みてたら……つい』

「つい……じゃないわよ。もう許さない」

『え……？』

唯をひん剥いて、可愛い服に着せ変える。そしてそのままベランダに脚を開くように抱き抱えて連行。  
「さあ、唯。唯がこんな姿になっちゃったのが、まわりの皆にみてもらいまちようねえ」



『まって！まってまって奈々ああ！こんな無駄目だよ見られちゃう……見られちゃううろろう』

「いいじゃない？散々、近所の家の人からも  
恐がられてたんでしょ？こーんな可愛い女の  
子になっちゃいましたあーっって宣伝できる  
じゃない」  
『でっでもおお……お願いだからあ下に何が  
はかせてええ、パンツ……パンツだけでもい  
いからああ』



「んっだあめ。でもそうねえ？私のみちの  
ぼを唯のおま○こにシユポシユポさせてくれ  
たら考えるわよ？」

「いやらしいいく、エッチにおねだりしてく  
れたら考えてあげるかも？」

『そっそんな……』

「嫌ならいいわよ？ほらお外にでまちよう  
わえ」

『やっやらあ♥やだやだ♥いう♥いいますが  
らあああ』

は——…♥

おねだり♥

は——…♥

キョッ♥

トロロ♥

は——…♥

キョッ♥

『ギンギンに勃起したメスち○ぽで、ボクのお  
ま○こ犯してくださいますか？おま○こ期  
待しちゃって、エッチなお汁とまらにやいか  
りやあ』

『おち○ぽつつこんで、めちやくちやに犯し  
てくださいい』



ジユポ  
『ほっ!?!ほおおおおお』  
「ありや、間違ってケツま〇このほう犯し  
ちやったわね。おめでどう唯。おま〇この処  
女の前に、ケツま〇こで処女卒業しちやう変  
態さんなんて、ながなが居ないわよあ?」

『じえ、じえんじえん嬉しくにや……おまお  
ほおま』  
「ほらほら、動くわよ……じゅっぽじゅっ  
ぽおあゝ私のおち〇ぽが出たり入ったりす  
るこ、唯のおしりの穴まで吸い付いて出たり  
入ったりしてゐるわよあ」



『おひっ♡♡♡おひいい♡♡♡みっみにやい  
で♡それにや恥ずかしい所みにやい……お  
ひいい』

「そんなこといって、唯。あんた嬉しそうな顔しちゃってるわよ?」  
『ちがうにはおお、ちがうにはおおおお! こんにやんできもちよくにやんでええくらにはほおお』



「ほらほら、唯がそんな可愛いこえだから、もうおち○ほ耐えられにやい、だあわよ? いわよね?」

『まっまって♡♡まだ心の準備が……』  
「むりいいい……もう我慢できないい♡い  
くろうろ、幼馴染みのケツま〇こで童貞すて  
てメスち〇ぽ、おち〇ぽミルワドビュドビュ  
しちやうろ」



「こんにやの、ふたなりでも女の子がこえ  
ちやいけにやい一線にやのにいっく我慢で  
きにやいのおお♡♡メスち〇ぽいく  
うろうろ♡♡」



『んおおおお！？きてりゅうう！！お腹の  
なが、おち○ぽミルクで……お  
ひいいい！！？』  
『おち○ぽミルクでいくううう！！ん  
おおおおお』

こうして、唯のケツま〇こに種付け射精をきめた私は……

だがこのケツま〇このご主人様なのかを教え込み、唯を自分のものにしたのだった。

「……って、なるほどだったのにいい。なれどこ  
んな格好……」  
『いい？ 奈々……それって普通にシイプみたい  
なもんだからわ……』



「だって……誰が可愛すぎるのかわいけないし、  
唯だって私のおち〇ぽ……」

「も、もう良いでしょ？犬みたいな格好で『待て』だなんて……本当に犬みたいじゃない……」



『それじゃあ、ボクに言わせてみたいに、いやらしくエッチなおねだりしてみせてよ』  
「えっ……ええ♡♡?」

『ほらほら？おち○ぽふりふりしながらエッチにおねだりしてみせてよ？ボクも奈々このエッチがまんしてたんだから』



『トロトロにこけたケツま○こ、おち○ぽをまたプヌプ犯したくないの？』  
「うっうっ……おがしたい……」

「おち○ぽ、唯のケツま○こでシユポシユポ犯  
したいのおお！おち○ぽで唯の事、屈服させ  
ちやうつもりで、簡単にケツま○こに即負けし  
た弱々ち○ぽおお」



「唯のケツま○こで搾り取ってえええ！ほ  
らああ、キ○タマもおち○ぽもフリフリドスケ  
ベダンスあるかりやあ」

「おち○ぽ、いれさせてえええ！」

「(うう、女の子として絶対いっちゃいけない言葉なのたい、女の子として終わっちゃうの(こいこ)」



「(エッチな言葉いって気持ちよくてしがたないたまみ)」

『はい、良くてきました。犯していいよ』  
「ケツま〇こ、ケツま〇こおあ♡ジユポジユポ  
はめはめありゅのおおあ♡♡♡気持ちいい  
……おち〇ぼこけりゅちゅ」



『ボクも気持ちいいよ……♡んひっ……奈々の  
がボクの中で……ほひい♡♡♡?』

「だみえええ……こんにゃのすぐいっちやう  
よおお……唯のケツま〇こにおち〇ぽ負けちや  
うう……完全服従しちやうのおお」



「わがりゅの……ふたなりおち〇ぽは、誰にも  
触らせたりやだめだったのおお、すぐ負けちや  
う弱々ち〇ぽだかりやあゝ」  
「誰かに犯されたら最後……すぐおち〇ぽポロ  
負けにされて、相手に服従しちやうのおお」

「やらああ、恐いよおお……唯……でも、へ  
こへここし降り止まりやなひい……」  
『あひっ……んお……大丈夫だよ？ぎゅっして  
てあげるから、怖くない怖くない……』



「ああだみええ、優しくされてでりゅうっ……  
おち○ぽトドメさされながらいきゅうっ……」  
「おほひいひいひい……」  
こうして、私が唯のものにされてしまったの  
だった。

『どっどっかな？頑張ってエス……？ぼく  
してみたんだけど……変じゃなかった？』

「凄くよかった……じゃなくて、何処で覚えてきたのよあんなの」

「ああ、それなら……」



♥ エッチなゲームを見せ続ける

♥ 怪しげなコスプレ衣装

♥ ケツま〇こでおち〇ぽにすぐ敗北しないため、極悪バイブ上級編

トロロロ...

ぐわんぐわん

ぐわんぐわん

ぐわんぐわん

『だっだめ……♡♡♡こんにやの無理だよ  
……♡♡♡？お尻のあにやあぁ、お尻のあにや  
滅茶苦茶にされて……おひいいい』



【だめだめ、そんなんじや、おち〇ぽに勝つ  
どころか……奈々ちゃんを楽しませてあげら  
れないわよ】

【女に生まれて20年プラスアルファ……女の子としてのおち〇ほの楽しませ方を、貴女に教えてあげるわ、母として！！いい？これは普通のことなのよ】



『わっわがったあゝ、がんばりゅ……ん  
ほおお……おし……ケツま〇こ……ケツま〇  
こおお……♡♡♡』

「御近所さんから話をきいたお母さんが、  
奈々ちゃんはアシでドエム……？だからこう  
した方がいいって……」

『唯……とりあえず、家を出た方がいいと思  
うわ』

「……はい？」

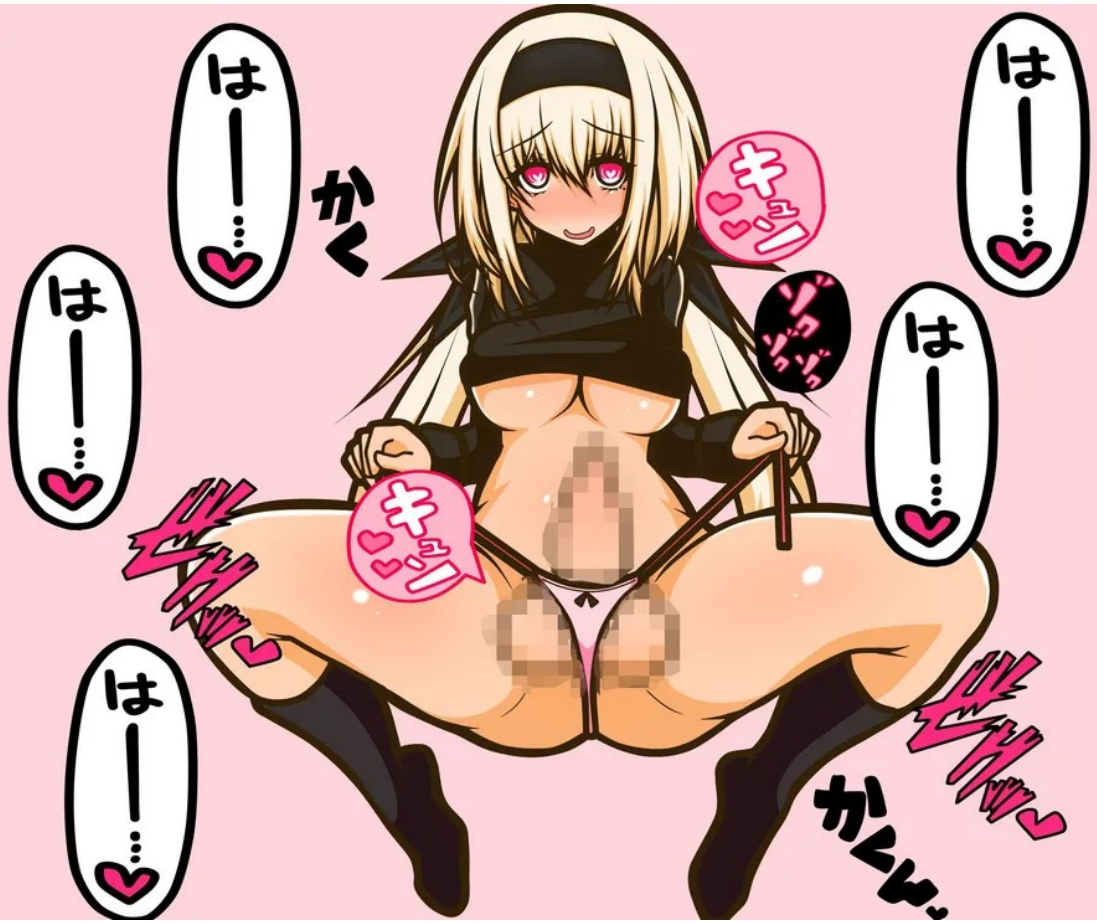
（個人的にはいい仕事してくれたと思うけど  
……思うけど……）

それから言うもの……  
すっかり私は唯のものにされていってしま  
うのでした。

このままじゃ駄目だと思いつつも、唯に快  
楽を教え込まされてしまったおち○ぼは正直  
で、とても耐えることなんて出来ず……

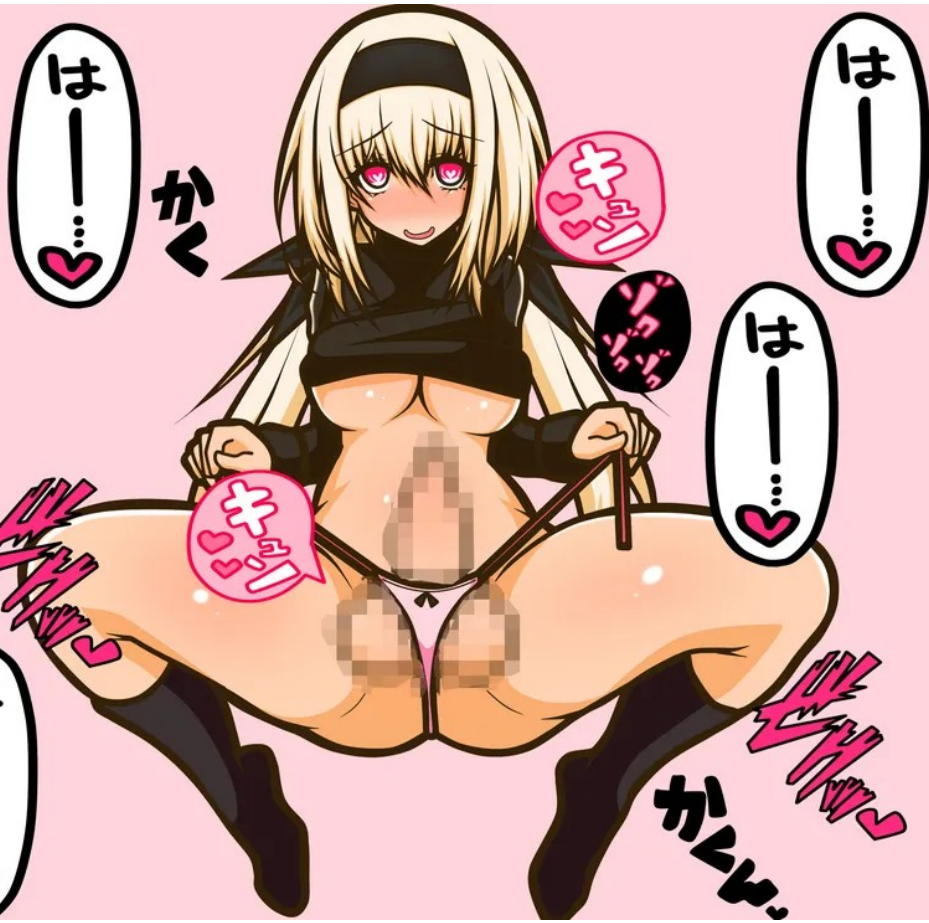
そして。

「はああ、はああ……」  
（ああ、最低……最低だよお。こんな仰向けに寝転がって、おち〇ぼ差し出して、服従のポーズきめちやってるろう）



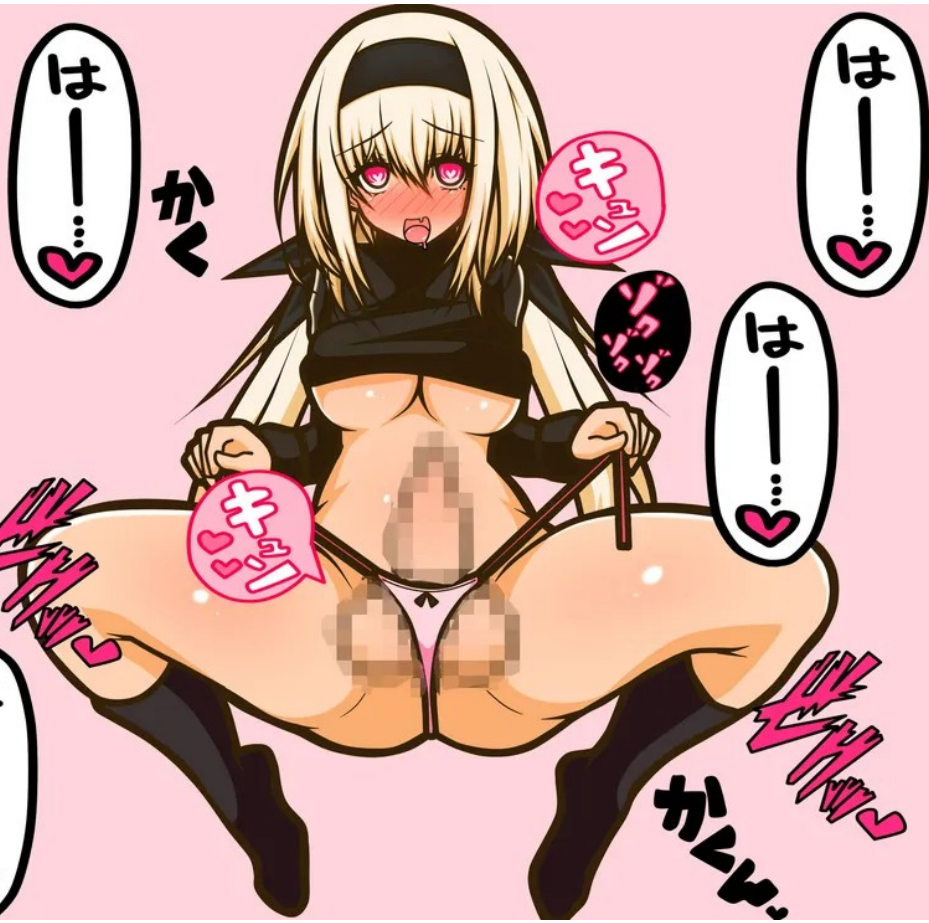
（こんなの、女の子が絶対にしちやいけないポーズなのにいい、唯におち〇ぼ服従しちやっって、やめられにやいのおお）

『奈々、いいの？今ならまだやめられるかも  
しないよ？』



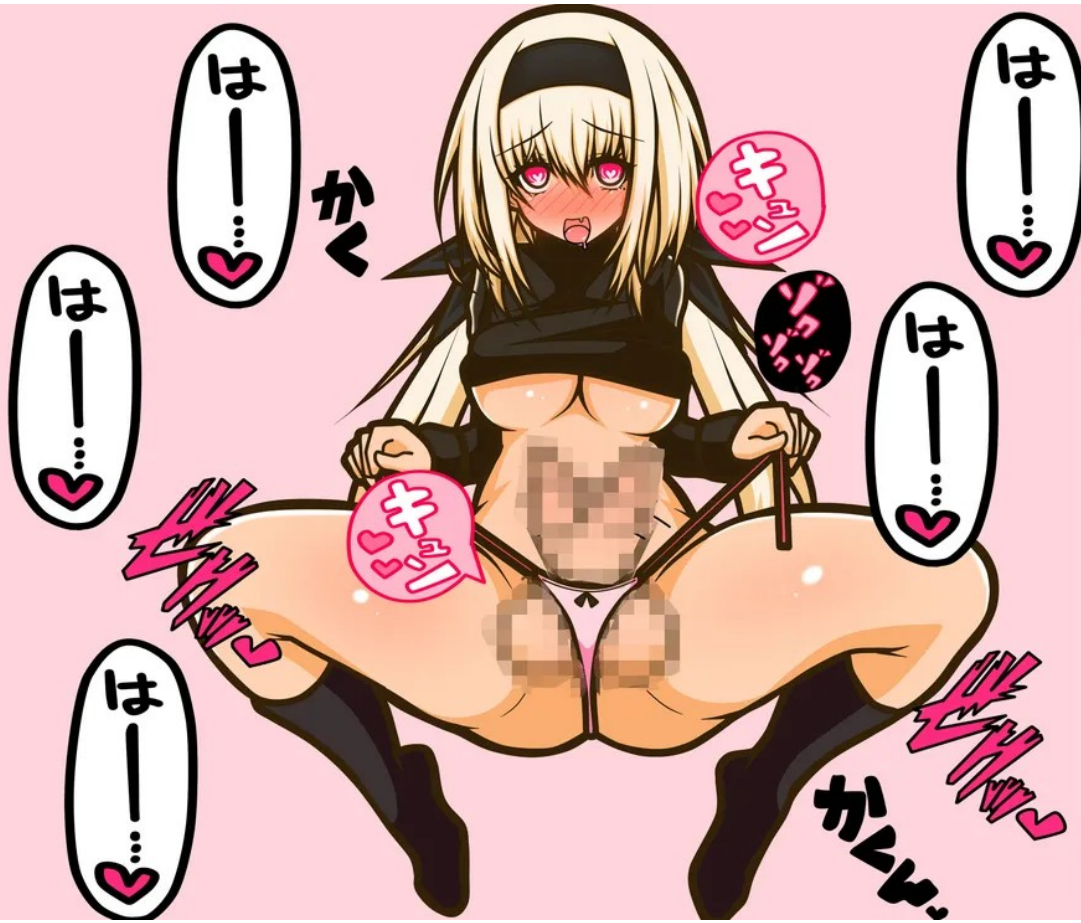
「……う、うう。いいのおおお！唯に私の  
おち〇ぽあげりちのおおお！」

『奈々、いいの？今ならまだやめられるかも  
しないよ？』



「……う。うう。いいのおおお！唯に私の  
おち〇ほあげりちのおおお！」

「私のおち〇ぽもメスキ〇タマも、全部唯の  
ペットになりゆのおおあぁ♡♡」  
「唯に遊んでもらえるように、おち〇ぽフリ  
フリ、タプタプキ〇タマダンスして媚びる、  
淫乱ペットになりゆのおお♡♡」



「だから奈々のメスキ〇ぽもメスキ〇タマ、  
支配してくださいい」

『よく言えました。じゃあ、脚でしてあげるね。ほらほら、脚なんかで、キ○タマぐにくに、ちぢんシ○シ○されて気持ちいい?』



「おほおおお♡♡♡?キ○タマあぁ♡♡♡私のメスキ○タマアア♡♡♡はひいいい、気持ちいい♡♡♡気持ちいいしゅらう」

「ああああ、キ○タマ騎られりゅう♡♡♡キ○タマ誰の所有物なのか、教えこまされりゅう」



「キ○タマ、簡単に騎られちやうによお♡♡♡キ○タマの所有権、唯に奪われちやう♡♡♡」  
「唯に命令されただけで、簡単に射精しちやう。唯のマソペットキ○タマ女にされちやうのぉ」

『あはは、おちのぼがびくびくしてるね。ほらもうすぐ射精しちゃうよ』



『やしたら、奈々のおちのぼもキ○タマもボクのものだからね。もう奈々のモノじゃないから、触るの禁止だよ?』  
『シ○シ○するの洗うのも、ゼーンズボクの許可がいるの。それでもいい?』

「いいでしゅう♡♡♡それでいいでしゅうが  
りやあぁ♡♡♡メスち○ぽ、服従射精おしゅう  
うっ♡♡♡んおお♡♡♡」

